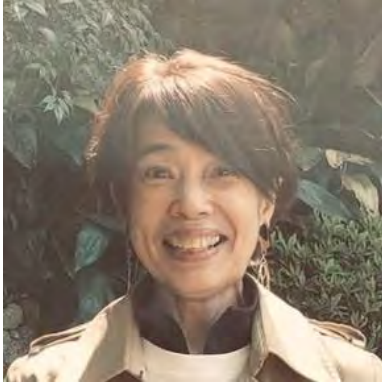


## ながさきこと（言）・おと（音）塾





塾長 西村 公美子

### ■ 塾長コメント ■

思いかえせば、電停でバッタリ友人に会い、この長崎伝習所塾のことを教えてもらったあの日。

その後、私の中で“長崎に住んでいながらまだまだ知らないことが多いなあ。自分が身近に使っている物のルーツを知ったら、ますます好きになったり、大切にしたり、愛着がわいたりすることがよくあるし、そう考えると、知らない長崎を少しでも知ることで、それを自分ができる形で何かやれないかな？”と、そう観じたのがこの塾づくりのきっかけとなりました。

もともと絵本が好きで、それに、音やメロディ・音楽をプラスすることで、更に絵本の世界にいざなうような活動をしていたこともあり、そのことをうまく活かして形にできないか...といろいろ思案した構想が後に添付している資料(手書き資料)です。

塾生が何人集まるだろうかと、不安なところもありましたが、人数ではなく、集まった方々とともに創っていく(共創)の場を大切にしようと、自分の軸を決めスタート。

とは言っても、何もかもが初めてで右往左往する中、集まった塾生のみなさんの長崎への思い、塾への期待など、熱意の高さでスム

ーズなスタートができた昨年5月。月に1〜2回程度の定例会の中で、みなさんの意識の高さを実感したり、試行錯誤を繰り返す中、オリジナルの成果品『おかしゃまあもじょ』の完成へとつながりました。

今後の活動としては、依頼があれば、いろいろなコミュニティで披露していければと思っています。

### ■ 塾の目的 ■

①身近にある、長崎にまつわる話の“こと(絵本)”と“おと(音)”作りを通して、少しでも長崎の歴史、或いは、文化継承につながり、地域交流や「長崎に住んでよかった」「長崎がますます好きになった」など、地元愛を育むきっかけになること。

②集まった塾生ひとりひとりが、“自分のできること”“得意なこと”を活かせる場になること。

を目的としています。

### ■ 塾の研究・活動内容 ■

塾の目的と内容の共有、塾生の関心、情報提供とスケジュール調整を行い、まずは、題材を決め、グループに分かれての活動に移り、最終は全体でまとめの活動をしてきました。

(5月)開所式・塾生顔合わせ・題材決め

題材については、発掘して一から作ることも意見としてあったが、相当の時間を要することも考えられ、1作品目は現存する物語を土台に創り上げることとなった。

(6月)担当・役割・グループ決め

文章グループ・絵グループ・音グループに分かれる。各グループで活動(作業)スタート。

(7月)各々グループ活動

文章グループ……あらすじ決め  
絵グループ……現地(光源寺)視察

後日、全体でシェア

(8月)各グループ活動

音グループは、文章(あらすじ)・絵の流れ  
を見聞きしながらイメージ思案

(9月)各グループ活動・シェア

文章グループ……ことば・文・場面の見直  
し及び修正

絵グループ……問題点をあげ、相談しなが  
ら作業

(10月)各グループ活動・シェア

文章グループ……方言見直し

絵グループ……色付け作業スタート

音グループ……アドバイザーのサポートを  
受け曲のイメージ作り

(11月)各グループ活動・シェア

文章グループ・絵グループ……できている  
ところまで照合

音グループ……テーマ曲とメインのメロデ  
ィ作成

(12月)各グループ共、全体的な完成に向けて  
の作業と共有

文章と絵の照合。そこに、大まかではある  
が、音を重ね物語を通して読む。絵の色付け  
はグループ問わず手伝いに入る。

(1月)全体的に照合

絵と文の最終照合。絵をプロジェクターで  
投影しながら音を重ね、語りを入れほぼ完成。

(2月)成果品(絵本)作り

絵本作り(文字は塾生の小学生に依頼)と映  
像撮り(DVD化用)。

定例会に参加した塾生で配役を決め、音を  
入れながら映像撮影。

(3月)最終活動

しおり作り・DVD作り。

成果品を塾生へ発送

## ■ 塾活動の成果 ■

①絵本「おかしやま あもじょ」

②曲(オリジナル)

③DVD(映像・音入り)

④しおり(2種)

今年度は、最終詰めของ時期に、コロナウィ  
ルスの影響の為いろいろな活動が中止となっ  
たのは残念でした。

それでも、成果品は作成でき、今できるこ  
とをできる形で、との思いで作業を進め完成  
につながりました。

物語は、すでに絵本や紙芝居等として存在  
していますが、絵本とオリジナルの音楽との  
コラボレーションは、この塾ならではの作品  
だと思います。

絵本の文章・絵・文字・音楽・しおり・  
DVD、どれをとっても心熱くなるものを観じ、  
塾生の方々の想いに、ただただ感謝です。

## ながさきこと(言)・おと(音)塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>令和元年</b>		
5月21日(火)	長崎歴史文化博物館	長崎伝習所「塾」開所式、第1回 塾会議
6月21日(金)	市立図書館会議室	6月度月定例会
7月1日(月)	市立図書館研修室	文章グループ集まり
7月19日(金)	市立図書館会議室	7月度月定例会
8月2日(金)	市立図書館会議室	文章グループと絵グループ集まり
8月23日(金)	ランタナ会議室	8月度月定例会
9月20日(金)	市立図書館会議室	9月度月定例会
10月25日(金)	市立図書館会議室	10月度月定例会
11月4日(月)	市立図書館研修室	絵グループ集まり
11月22日(金)	市立図書館会議室	11月度月定例会
12月1日(日)	市立図書館会議室	絵グループ集まり
12月14日(土)	市立図書館研修室	絵グループ集まり
12月20日(金)	市立図書館会議室	12月度月定例会
<b>令和2年</b>		
1月17日(金)	市立図書館会議室	1月度月定例会
2月22日(土)	キンコーズアミュプラザ店	成果品作成準備
2月23日(日)	キンコーズアミュプラザ店	成果品作成
2月28日(金)	市立図書館会議室	2月度月定例会
3月9日(月)	キンコーズアミュプラザ店	しおり作り(成果品)・映像編集
3月10日(火)	キンコーズアミュプラザ店	映像DVD化

## ☐おかしやま あもじょ』ができるまで!!

### 題材は…

塾開所式後、塾生の皆さんと初顔合わせの日。

長崎に対する思い、想いが伝わってきたことは、忘れられません。

1作目の題材を決める時も、いろんな意見がとびかう中、光源寺さんのかけ軸のことは知っていても、話や詳しいことは知らないかも…と、声があがり、とりあげた作品です。

### 取り組み方としては…

この塾で、大事にしたいポイントとしている、“自分の得意なこと、できる事、やりたい事、楽しめる事”を、自分でチョイスして、3つのグループ分け（文章グループ、絵グループ、音グループ）をし、グループ内、他グループと、内容を確認し合いながら取り組んできました。

### 流れ…

#### ◎文章グループ

《一番土台になる文章の構成までに》

- それぞれが、登場人物、あらすじ、起承転結を自分なりに考案して持ち寄る
- 光源寺さんからいただいた冊子を参考にする
- タイトルをオリジナルで考える
- 長崎弁を使う
- 場面の区切り方
- 言葉、文字による情景表現模索
- 推敲のくり返し
- 文字清書は4年生の塾生に依頼

#### ◎絵グループ（小・中・大学生参加グループ）

《絵の構成までに》

- 描写（デジタル絵、アナログ絵のコラボ）の方法

- キャラクター別に担当決め
- 光源寺さん視察

〔 住職さんの話を聞く  
紙芝居を見せてもらう  
赤子塚を訪ねる 〕 ⇒ 絵の細かい描写、構成につながる

- 文章グループと場面確認と照合
- 何枚の構成にするか
- 町の風景をデジタル図書館で閲覧（図書館の許可確認）
- 用紙、大きさ選び
- ペン選び
- 他グループへの色付けヘルプ

#### ◎音グループ（アドバイザー参加）

《オリジナル音楽の構成までに》

- 話の内容を読み込む
- 尺八の効果的な活用（塾生に尺八の先生在籍）
- 尺八とピアノ（キーボード）とのコラボ
- 効果音を考える
- 文章と絵を把握しての曲のイメージづくり
- “強さとやわらかさ”の表現
- 怖さを感じないようにイメージ
- オリジナルにこだわる
- 話の内容、流れの中で、音を入れる場面、サイレンスな場面での構成を考える



### 仕上げ…

- ・各グループでの作業をすすめながらも、毎回、お互いの作業内容をシェアし、全体の流れを共有
- ・定例会後半の回は、文、絵を綿密に照合し、そこに、場面に応じて音、曲がはいり、仕上げにつなげる
- ・特に、音グループが一番のポイント作業となる
- ・絵を1枚ずつプロジェクターに移す作業
- ・大筋完成した時点で、プロジェクターで絵を映しだし、語りをいれて音を重ね合わせ、全体のイメージをとらえる
- ・絵の製本、しおり作り→成果品
- ・映像撮影（DVD としての成果品づくりの為、集まった塾生での撮影）

### 楽しい中にも…

私も含め、皆さんが、初めてのことなので“ココは、どう対処・対応していこう？”ということも多々ありました。

文章グループは、一番土台となる部分なので、早急な作業を必要としました。それぞれの感性、観じるものが違うので、大筋ができるまでは、何度も意見を交わし、推敲は、最後の最後までやりつづけました。絵のグループにおいては、デジタル絵・アナログ絵をどう取りいれていけるのか。ペンを選び、色付けはどうするのか、限られた時間と、作業量の違いで、他グループへの手伝いを依頼するも、手伝える方が少なかったり等、相談を受けることも多かったです。

音グループは、文と絵がある程度完成しないと作業が進まないこともあり、定例会の前半は、イメージをふくらませることしかできず、時間の有効活用ができなかったりしまし

た。

3グループに分かれての作業は、効率のいい反面、この塾に関しては、3グループが同時進行していくものではなく、その間の場づくりやコミュニケーションには、声をかけた、相談にのったり、お互いのグループの話をしたりして、配慮してきました。

### それでも…

最後は、コロナウィルスの影響で、塾生の皆さんとの仕上げ作業、完成の達成感、発表の経験を味わうことはできませんでしたが、約1年足らず、それも月に1～2回程度の定例会の中で、それぞれの長崎に対する思いをのせて、成果品につながったことは、何より、塾生、アドバイザーひとりひとりの大きな成果だと嬉しく思います。

### こと(言) えほん

- ・子どもの頃に読んでもらった
- ・子どもに読んであげた
- ・自分で読んだ
- ・どんなキャラクターにでもなれる
- ・〇とか×とかがない
- ・正解・不正解もない

### おと(音)

- ・場面(シーン)に合う音やメロディ
- ・想像力の拡がり
- ・インパクト、記憶に残る
- ・更に、話の世界へ誘う
- ・じじ地よい
- ・感情を音で表現
- ...etc



## ながさきこと(言)おと(音)塾

# 共

# 創



に

る

みんなが活動するのが嬉しい 創る喜び

長崎に住んでいるのに 知らないことたくさん 知ると ワクワクする 楽しい

住んでいる土地が好きになった 伝えていきたい

多くの人に訪れてほしい 長崎ステキ







何日も続き、その日はちょうど七日目の夜でした。

「またあん人ばい。」

戸を開けるとやはりいつもの女の人が立っていました。が、今日はいつもと少し様子が違ってきます。

「今日はもうお金がありません。ですが、どうかあめを一文分めぐんでください。」

声はかぼそく悲しげで、手はふるえ、その姿は、もうしわけなさそうでしたが、いつもに増して必死に訴えかけ、かさねてすがるような様でした。

主人はかわいそうに思い、あめを一文分けてあげました。

「ありがとうございます。ありがとうございます。」

女の方は深々とあたまを下げて立ち去りました。

どこからともなく毎夜あらわれては、“あめ”を買って帰る気味の悪い女の人。

「あん人はいったいどこに住んどるとやろうか？」



どうしても気になったあめやの主人は、怖くはありましたが、その日は勇気を出して立ち去る女の人の後を追うことにしました。



女の方は、風のように“スウーツ”と...まるで飛んでいるかのようです。



あめやの主人は闇夜の中を見失わないように追い、たどりついた先は光源寺。







女の人は光源寺の本堂の裏へ回り、墓の方へと姿を消したのでした。



その光景にこしをぬかすくらい怖くなった主人は、あわててあめやへ引きかえし夜が明けのをまって、光源寺の和尚さんのところへかけこみました。

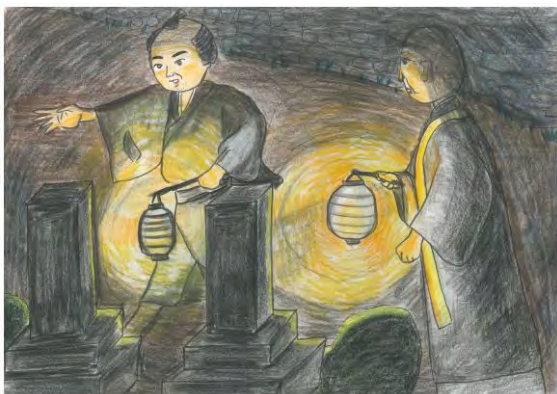
主人はいままでおこった七日間の一部始終をせきを切ったように和尚さんに話しました。だまって聞いていた和尚さんは「そうか...」と何か思いあたるふしがあるかのように話しはじめました。



「実は、ついこのころの話たい。京の娘と長崎の男性が結婚の約束ばしとったらしか。長崎に帰った男性のもどってくっとのおそかけん、京の娘が長崎にきて、そん男性ばたずねていったら、なんと男性には親の決めたつまのおったとって。そいで、そん京の娘は悲しゅうして悲しゅうして悲しみの深かあまりに、体ば悪うして死んでしもうたんじゃ。だあーいも女の人を引きとる人のおらんけん、この墓地に亡きがらばうめたとさ。」

「どうも、そいが何か関係のあるごたあね。」

和尚さんは、さっそく墓地へ行ってみると、さいきんくようしたばかりの墓の下から、





「オギャーオギャー」と赤ん坊の音がひびいてきました。

墓をほってみると、あめやの主人が女の人に売ったあめをしゃぶった赤ん坊がいました。

「あん女人はこの赤ん坊のおかしやまやったとたい。」



「棺に入れた六文銭で毎日あめば買っとったとばいね。」

「死んでしもうても、おかしやまとしての子に対する気持ちはすごかね。」

和尚さんは、母子の愛の強さをあらためて感じながらこの子を大切に育てていこうと母の想いをつくことを決めました。



赤ん坊は和尚さんに引きとられ、おかしやまのくようもすませたある晩のこと。

あめやの主人がねていると、ゆめに“おかしやまあもじょ”があらわれました

「わたしの赤ん坊を助けてくれてありがとうございます。おれいに、なにか願い事を叶えてさしあげます。」

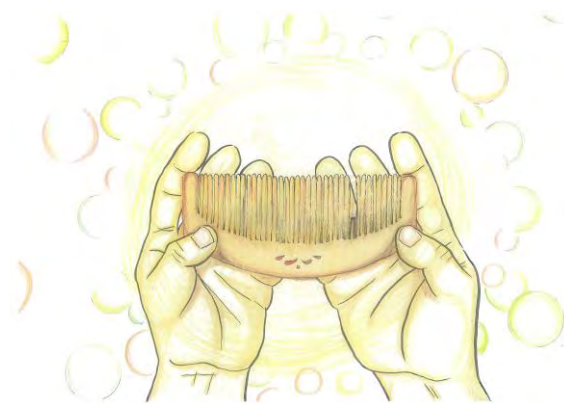


そのころ、翹屋町付近は、水に不自由していましたので、あめやの主人は「水の足りんけん、町のためにも水ばほしか…」とたのみました。おかしやまあもじょは静かにうなずき、「女物のくしが落ちているあたりを掘ってください。」と言うと、“フッ”と消えていきました。

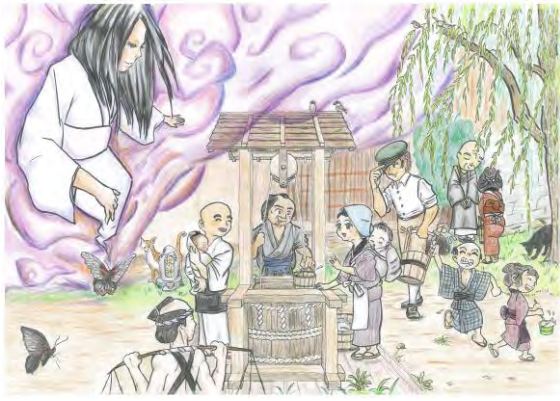




「あー、あった。」  
おかしゃまあもじょが言っていたとおり、女物のくしが落ちていたのです。



あわててみんなをよびあつめ、そのあたりを掘ってみると、不思議なことに、冷たい水がどンドンわきでてきました。



「あー、ありがたかあ。」と、あめやの主人は大きな声を出しました。

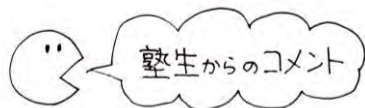
それ以来、この井戸はどんな日照り続きでもほかの井戸が枯れて水不足でもコンコンとゆたかな水を讃えつづけたそうです。

この絵本には、長崎にまつわるキャラクターがあちこちでお目見えしているのも楽しめるものとなっています。



### 絵本クイズ

- Q1. 尾曲がりネコは何匹登場している？
- Q2. シーボルトはどこだ？
- Q3. 龍馬をさがせ!!
- Q4. 中国から伝わってきた遊びはどれ？
- Q5. 飛んでいる蝶々の名前は？



お疲れさまでした。

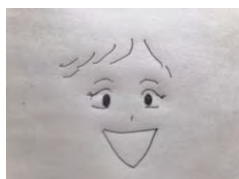
皆さまの、特に野上様(音楽アドバイザー)のおかげで、何とか役割は果たせたかな？

見事なストーリー、絵、そして語り。次の話のネタもあるのですが、機会あればお話ししたいと思います。ありがとうございました。



(高橋)

集まりの回数を重ねるたびに、楽しくなりました。が、自分自身の時代おくれザマを痛感しました。



(村上)

コロナで、せっかく取り組んだ作品の発表ができず残念です。



(北浦)

私は、途中から入れていただき何度も行っていないのでよくわかりません。来期もこの伝習所がありましたら、また入れていただきたいです。



(岸本)

2019年5月から毎月1回程度に伝習所に行っています。そして、いろいろなことを勉強させてもらいました。

また、たくさんの優しい仲間が私を迎えてくれました。あまり仕事が多かった私に、母は絵をかかせてくれたり、塾長さんは文章の文字を書かせてくれました。

そのことから『あきらめずにいろいろなことにチャレンジ』ということが大事だと思いました。



(胡紗都)



この作品を作るにあたり、あらためて我がふるさと長崎の歴史・特徴を学ぶことができました。

これは、とても良い経験で、自分の長崎に対する思いを新たにすることができました。

そして、皆でひとつの物を創る難しさ・楽しさを知ることができました。



(半田)

絵本作りの中で、長崎のお話の発掘や歴史等、さまざまなものにふれることができました。

もっともっと長崎を知って発信したいと思うようになりました。

とても素敵な体験をありがとうございました。



(高田)

長崎を想うさまざまな年代の方々と、長崎にまつわる物語を絵本にして音楽を添えるという、貴重な経験を通して、絵と言葉と音の力を改めて感じる事ができた1年でした。



(加藤)





♪野上 智恵子♪

今回、音楽アドバイザーとして参加させていただきました野上です。

音グループの私たちは、ストーリーに合わせて音を付けていくので、絵本が完成してからの作業が主になりました。

音グループの中に、尺八の先生が参加されていたので、ありがたくも尺八の音が絵本の内容にもバッチリ合う音色で、雰囲気づくりはこれでいこうと決まり、『おかしゃま』のテーマとして演奏していただきました。

中間から後半にかけては『母の愛』がこの絵本のテーマでしたので、子を残して亡くなる母のせつなさ、子を愛する気持ち、そして、育ててくださる皆さまへの感謝の気持ちを感じながら思いを込め、曲を3曲作りました。

絵本の語りの奥から聞こえる音の響きにも、ぜひ耳を傾けていただけたらと思います。

こと(言)・おと(音)塾に参加されている皆さんの、絵本を創る熱い想いと、意気込み、技術のすばらしさ、そして何より長崎を心から愛する気持ちから完成した絵本は、とてもすばらしいものになりました。

ここに、アドバイザーとして参加させていただきましたことを、心より感謝しております。

ありがとうございました。

#### クイズの答え

- Q1. 尾曲がりネコ…15匹 Q2. シーボルト…21 ページと 25 ページ目(2ヶ所)  
Q3. 龍馬…24 ページ目 Q4. 遊び…ジャンケン(24 ページ目)  
Q5. 蝶々…長崎アゲハ(25 ページ目)



## ながさきこと(言)・おと(音)塾

塾長	西村 公美子				
1	石橋 心優	21		41	
2	石橋 ゆかり	22		42	
3	伊藤 祐希子	23		43	
4	加藤 明美	24		44	
5	岸本 賢一	25		45	
6	北浦 由美子	26		46	
7	高田 明子	27		47	
8	高橋 政寛	28		48	
9	半田 胡紗都	29		49	
10	半田 弘美	30		50	
11	峰松 仁恵	31		51	
12	村上 育子	32		52	
13		33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	地域支援室 松本 恵